



介しています。

6. また、<『天はあらゆる人を同一に愛する。ゆえに我々も自分を愛するように人を愛さなければならぬ』、西郷のこの言葉は「律法」と予言者の思想の集約であります。「天」には真心をこめて接しなければならず、さもなければ、その道について知ることはできません。西郷は人間の知恵を嫌い、すべての知恵は、人の心と志の誠によって得られるとみましました。>と紹介しています。
7. さらに、<『誠の世界は密室である。そのなかで強い人は、どこにあっても強い』『人の成功は自分に克つにあり、失敗は自分を愛するにある。八分どおり成功していながら、残り二分のところで失敗する人が多いのはなぜか。それは成功がみえるとともに自己愛が生じ、つつしみが消え、楽を望み、仕事を厭うから、失敗するのである』それゆえ私どもは、命懸けで人生のあらゆる危機に臨まなくてはなりません。西郷は、責任ある地位につき、なにかの行動を申し出るときには「わが命を捧げる」ということを何度も語りました。完全な自己否定が西郷の勇気のコツであったことは、次の注目すべき言葉から明らかです。『命も要らず、名も要らず、位も要らず、金も要らず、という人こそもっとも扱いにくい人である。だが、このような人こそ、人生の困難を共にできる人物である。またこのような人こそ国家に偉大な貢献をすることのできる人物である』>と紹介しています。
8. そして、<西郷は、また自己自身をも信じる人でありました。天を信じることは、常に自己自身を信じることをも意味するからです。(西郷は)『断じて行えば鬼神もこれを避ける』と言いました。また、『機会には二種ある。求めずに訪れる機会と我々の作る機会とである。世間でふつうにいう機会は前者である。しかし真の機会は、時勢に応じ理にかなって我々の行動するときに訪れるものである。大事なときには、機会は我々が作り出さなければならぬ』…こう西郷は言っています。>と紹介しています。
9. それから、<「敬天」の人は、「正義」を敬し、それを実行する人にならざるをえません。「正義のひろく行われること」が西郷の文明の定義でありました。西郷にとり「正義」ほど天下に大事なものはありません。自分の命はもちろん、国家さえも、「正義」より大事ではありませんでした>と紹介しています。
10. 内村鑑三さんは、自著の「代表的日本人」の中で西郷隆盛についてこのようなことを紹介していらっしゃいます。

今日は、今から100年ぐらい前に書かれた「代表的日本人」を古典を読もうということで紹介させていただきました。岩波文庫にありますので、ぜひお読みください。よろしく願いいたします。